

県内ワイナリー25社による自慢の逸品

# 「山梨県産ワイン商談会」を開催

## ACTIVE KUMIAI

### 山梨県ワイン酒造協同組合



商談風景

山梨県ワイン酒造協同組合(大村春夫理事長)は、平成24年12月5日「山梨県産ワイン商談会」を東京で開催した。

当日は、350名を超える酒類販売業者や飲食・宿泊施設関係者等が集まった。

日本における葡萄栽培は、山梨の勝沼が最初だとされており、四季の変化に富み、雨が少なく

日照時間が長いという盆地特有の気候が葡萄栽培に適していた。ぶどうから丹精込めて造られた山梨の個性溢れるワインを造っている生真面目な造り手の顔も知ってもらい気軽にワイナリーを訪ねてもらうため、今年度は旅行業者にも声をかけた。

近年、特に日本固有の葡萄品種「甲州」から造られる甲州ワインは、アルコール度数が低く繊細な風味やバランスの良い酸味などから和食にも大変良くあい、世界的な健康志向や日本食ブームに適していると言われている。

また、2009年から3カ年計画で関東経済産業局の支援を受けた欧州連合への輸出プロジェクトも大きな成果を上げ、業界の活性化に繋がった。

甲州ワインをはじめ、山梨県産葡萄100%を原料としたワインを出品した各社のブースは試飲を交えながら商談を重ねる人で終日賑わった。



開会のあいさつする大村理事長